

# 6年ぶり個人戦全日本出場の快挙! (経スポ)

## 剣道部 栗波涼之助(人間科学2年生)

### 現代の剣豪、一撃必殺の逆胴炸裂!

5月1日(日)、大阪府此花区の府民共済(SMBCアリーナ)旧：舞洲アリーナにおいて、第65回関西学生剣道選手権大会および第47回関西女子学生剣道選手権大会が開催された。男子は100名出場し、女子は91名出場し、男子はベスト30、女子はベスト16名勝者は、全日本出場権が与えられる個人戦の大会である。



男子は団体戦に3年連続で全日本選手権に出場しているが、個人では2011年を最後に出場から遠ざかっている。今回本学からは男子4名、女子3名が出場した。初戦、男子は栗波、寺内、小川の3名が、女子は仙石が危なげなく勝利。特に栗波は開始10秒で庄巻の二本勝ちを収め、今大会における意気込みを見せた。汎愛高校時代、武道科に所属し、剣道部主将として団体戦では不動の大将を務めた栗波は、類まれな勝負強さを発揮し、入学直後にレギュラーの座を奪い取った。強豪の私立高校を相手に勝ち星を重ねてきた彼は、大胆さと冷静さを兼ね備え、鬼神のごとく果敢に攻め込む剣風で観戦者を魅了



敗者復活戦の二回戦、関西の強豪・同志社大新垣と相見える。疲労も限界に達しているなか、体力勝負となる延長戦は避けた。互角の戦いが続くが、最後は一戦一勝の集中力で相手を上回った。新垣の竹刀が上がった一瞬の隙を突き、伝家の宝刀・逆胴を見事叩き込み、男子個人として6年ぶりとなる全日本学生剣道選手権大会出場を決めた。



このたび、全日本学生剣道選手権大会の出場権を獲得することができました。これは久野監督の熱意のこもった指導をはじめ、両親、O日の方々、他の部員の支えがあったからこそ、このような結果になったのだと思います。感謝の気持ちを持ち、全日本では思い切った悔いの残らない試合をし、上を目指して頑張りたいと思います。応援よろしくお願ひいたします。

栗波 涼之助(剣道部2年)

一回戦は栗波、仙石の両名が連勝し、三回戦に駒を進めた。三回戦、栗波は剣道の強豪校として名高い関西学院大の主軸・中西と激戦を繰り広げる。幸先良く一本を奪つも、その直後に油断した隙を付かれ、同点。最後は雑草魂ともいうべき意地を見せ、どうにか一本を取り返し、辛くも勝利した。仙石は三回戦で危なげなく勝利を収めるも、四回戦で名門・大阪

体育大 有貴に惜しくも一本負けを喫した。一方、栗波は全日本出場を賭けた四回戦で立命館大丸山と対戦。ここまで連戦の疲労もあり、二本負けを喫したことで、全日本出場は負け残り方式による敗者復活戦(持ち越し)となった。30分程度の休息を挟んで迎えた敗者復活戦初戦、栗波は大体大 石田と対戦し、一本負けを喫してしまっ

関西学院 同志社といった関西屈指の強豪校の選手を破っての勝利、ベスト30という結果以上に価値があるものだと思います。最終戦で叩き込んだ逆胴は、本人のこれまでの努力を物語るような素晴らしい一本でした。また2年生ということもあり、本人の努力次第でまだまだ伸びるはず。今後のさらなる活躍に期待します。

山田 雄太(剣道部 副部長)

発行：大阪経済大学 スポーツ・文化振興課

V O I C E

今回、2年生の栗波涼之助君が6年ぶりに全日本出場権を勝ち取ってくれました。これはいつも温かく支援いただいている徳永学長、大学関係者の皆様のおかげであると、改めて剣道部 同感謝しております。まだまだ小さな一歩ですが、その壁を打ち破ってくれたことで、これからの大きな飛躍を予感しております。どうぞ剣道部に二期待ください！本当にありがとうございます。

久野 敦馬(剣道部 監督)